

# 2回戦

10年秋季・1部2部入替戦

11月7日

2勝0敗

# 駒大野球

# 「粘り」と「激しさ」で

# つかんだ勝利!

# 大12回土大

最後の打者を三振で締め、笑みを浮かべる村上

同点打を放った岡

8回途中で登板した加茂は、悪い流れを断ち切った

決勝打を放ち、二塁しを上げる中谷

# 聖地・神宮へ舞い戻る

打線は初回到に幸先良く先制点を挙げた。投げては先発・井口拓皓(経2)が8回途中まで無失点の粘投を見せた。その後代わった白崎勇(管3)が逆転を許すが、9回到同点。10回、中谷泰周(市2)が決勝点となる左越適時打を放ち、1部復帰を達成した。

1部復帰まであと1勝とした駒大。初回1死二塁で、白崎浩之(法2)が神宮球場初安打となる中前適時打で先制した。

先発・井口は「調子が悪かった」と再三走者を背負うが、8回1死まで虎の子の1点を守る投球で先発の役割を果たした。1死一塁となったところで、1回戦で4安打完封の活躍だったエース・白崎勇がマウンドへ。

白崎勇は「抑えようと思ったけど空回りした」と2死から連続適時打を浴び、逆転を許した。なおも2死二塁の危機に、昨年の秋季専大戦以来の登板となる加茂勇作(国4)がマウンドに上が

った。「今日のマウンドは最初で最後になると思ったから全力で投げた」と流れを食い止め、9回へ望みをつなげた。

9回、安打と敵失で1死一、二塁とし、ここまで4打数で無安打の岡将吾(法3)が「仕事でできなくて絶対に決めると思った」と右翼線適時打で同点に追い付いた。9回裏も加茂が三者凡退に抑え、延長戦に持ち込んだ。

延長10回到に安打と死球などで2死一、二塁と勝ち越しの好機をつくると、9回から代走で出場していた中谷が打席に入った。「こんなチャンス今までなかったから、決めてやろうと思った。4年生がアドバースをくれて、ベンチからの声に後押しをもらった」と左越適時打を放ち逆転に成功。大きな2点が入った。その裏を4番手・村上浩一(経1)が抑え、6季ぶりの1部復帰を決めた。

主将・笠間将裕(商4)は「今までやってきたことが報われた」と涙を見せた。だがここで終わりではない。駒大は1部で最多26回の優勝を果たす名門。1部復帰は駒大復活への序章だ。

# HEROES～中谷泰周～

入替戦2回戦で新ヒーローが誕生した。

1部復帰へ導く決勝打を放った中谷泰周(市2)は今春、中堅手のレギュラーの座を奪い8試合の出場を果たすが、1安打のみに終わった。今秋もスタメン出場すらなく、代走・守備固めに限った。

しかし、実力を発揮できない中、入替戦という大舞台で汚名を返上した。延長10回、2死一、三塁で回ってきた打席。初球の甘いストレートを逃すが、2球目に「土壇場の場面ではたき球に反応した」と、振り切った打球は左翼線を大きく越えていった。まさに「本能で打った一本」。大学通算2安打目で初打点をマークした。

だが、ここで安心する中谷ではなかった。「一発屋で終わりがたくない」と、来季を見据え入替戦直後のオフ日も練習に励んだ。現在、3年生を中心に新体制で動き出し、春には力のある新入生も入学してくる。熾烈なスタメン奪いが始まるが、念願の聖地・神宮での中谷の一振りに期待がかかる。(菊池 美紀)



写真=橋本圭史、堀江あゆみ、山田遼太郎、水出綾香  
文=丸山翔太

駒大	100	000	001	2	4
国士大	000	000	020	0	2

【駒大】	打安点
⑥ 岡	5 1 1
④ 赤木	5 1 0
⑤ 白崎浩	5 2 1
③ 笠間	4 0 0
⑦ 山下	3 2 0
DH 北畠	2 0 0
HD 柴田	1 0 0
HD 山本	2 1 0
⑧ 小林	5 0 0
② 上村新	3 1 0
R9 中谷	1 1 2
⑨ 嘉数駿	2 0 0
PH 森田	0 0 0
PH 平川	1 0 0
PR 松尾	0 0 0
2戸 柱	0 0 0

計 39 9 4

▽二塁打=赤木、岡、中谷

	回	打安責
井口	7 1/3	327 1
白崎勇	1/3	3 2 1
○加茂	1 1/3	4 0 0
村上	1	3 0 0